

Q インド株式市場の見通しは？

A 利下げやモディノミクスが下支えになり、インド経済は比較的高い成長が続く見込みです。業績見通しも明るく、株式市場は底堅い推移になりそうです。

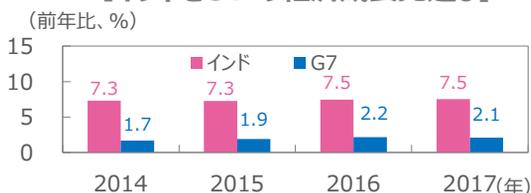
- インドの株式市場は、9月上旬に直近の安値をつけて以降、持ち直しています。
- 9月の米国の利上げ見送りや、インド準備銀行による市場予想を上回る0.50%の利下げなどが株式市場の支援材料になりました。物価の落ち着き次第では、さらに利下げが可能な状況です。
- 利下げ効果に加え、インフラ整備などのモディノミクスによる景気下支えも期待され、7%台の高い経済成長が続くと見られています。
- 主要企業の業績は2015年上期に一旦低迷しましたが、今後は順調な経済成長を背景に利益の拡大が見込まれています。株式市場は業績の回復に沿って、底堅い推移になりそうです。

【政策金利と消費者物価指数】



(注) 消費者物価指数は2014年1月～2015年9月。政策金利は2014年1月1日～2015年10月14日。
(出所) インド準備銀行、Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【インドとG7の経済成長見通し】



(注) インドは年度(4月～翌年3月)、G7は暦年。2014年は実績。
(出所) 国際通貨基金(IMF)のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【インドの株価指数と企業利益】



(注) 株価指数と一株当たり利益は、インド CNX 中型株指数。一株当たり利益は、2006年1-3月期～2015年4-6月期の各四半期(直近1年分)実績と、2015年～2017年の通年予想。予想はBloomberg L.P.。株価指数は2006年3月1日～2015年10月14日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。